

保護者様



令和6年度 後期自己評価について(お知らせ)

標記につきまして、国が定めております幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、認定こども園は教育・保育の質の向上を図るため、保育教諭等の自己評価を踏まえ、教育・保育の計画の展開や保育の内容について後期分の評価を終了致しましたので、お知らせいたします。

【評価の目的】



- ・評価をすることで保育教諭等の専門性の向上と共に課題を明確化し、こども園全体の質の向上を図る。
- ・保育教諭等一人ひとりが、自己の教育・保育を振り返り、基盤となる子どもの理解を深めることで、日々の教育・保育実践の意味を考え、職員同士で協力体制を強化しながら次のより良い実践へと繋げていく。

【評価の方法】

- ① 認定こども園教育・保育指針に基づく保育者のための「自己評価チェックリスト」を使い、第1章から第7章について各々自己評価をし、平均値を出し全体傾向をグラフにしました。
- ② 「保育を振り返る会」を0. 1. 2歳児クラス、および幼児クラス(3. 4. 5歳児)毎に開き、保育教諭等および園長、主幹保育教諭が参加をした。会では自分たちが心を動かされた多くの子どもの成長、そして一年間実践してきた教育また保育を振り返り、教育・保育への思いを語り合う会とした。
- ③ 「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いての振り返りの実施。令和6年度 保育・教育計画の見直し(3月)

【今期の評価を通して見えたこと】

- ① チェックリストの結果を令和6年度前期と比較すると、第1章 総則、第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項、第7章子育て支援が前期より上回る結果となった。乳児保育において日頃の園生活を通じて、一人ひとりの発達状況の理解と必要な支援がより明確になり、行えたと考える。また、保護者との信頼関係を構築する事で、保護者が求める支援、提供すべき支援がどのようなものであるか、日々の関わりの中で培われた連携や共同性によって相互に認識することが出来、「第7章 子育て支援」が前期より上回る結果に繋がったと考察する。
チーム保育の推進、必要とされる子育て支援の充実を図っていく事は保育教諭等の保育力向上に繋がり、さらに園全体の資質向上に繋がるものと考えます。
新年度を迎えるにあたり、園全体が目標とする教育・保育を各々が理解し、共有しながら、より良い教育・保育

の実践を目指していく。

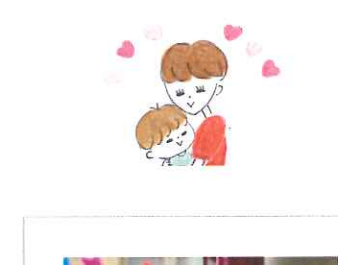
- ② 「保育を振り返る会」では一年間の保育を振り返る中、よりチーム保育の向上に繋がるよう、未満児は各クラスで幼児はより連続性に重きを置く事から、幼児 3 クラス合同で行なった。教育・保育を進める上で、その時感じた思いや感動、捉えたその成長の姿を振り返り、伝え合うことが出来た。またそれぞれで実践してきた保育を認め合い、共有し、自己の成長も実感する結果となっている。伝え合う中、こどものやる気と主体性に重きを置いた関わりの実践や、保護者との連携の重要性を感じたり、その温かな支援や、子どもから向けられる信頼、愛情を受け絆の深まりを実感したり、感謝や喜びを感じ涙する場面もあった。また一人ひとりの子どもに寄り添う保育とはどういうものであるか、原点に立ち返り共にチームメンバーと共有する中、保育を進めたり、自身の事のみではなく、他の保育教諭等の実践に注目し、違う視点からの新たな保育の取り組みや可能性を認識する場面もあった。さらにチームとしての取り組みや協力が支えとなっていることを事例を踏まえながら伝える等、チームへの感謝と共に、あらためて認識することができた。会では保育士としてのやりがい、職務に対する責任と思いを共有する事が出来、今後のより良い保育の実践に繋がるものとする。

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」は各々が、保育者としての、行動、子どもとの関わりを振り返るためであり、“人権擁護”と言う視点から、自己の関わりを見つめ直す事で「子どもを尊重する保育」への理解と認識を深めるために折々にチェックをおこなっている。

また、今年度も「教育・保育過程」「教育・保育指導計画」の見直しを行い、より子どもの成長・発達に沿ったものとなるよう修正・補足し立案した。年長児においては小学校接続期における「架け橋カリキュラム」を織り込んだ指導計画の再編を行なった。

今後も自己研鑽に努め、外部研修や園内研修での学びを深めることでより専門性を高め、実践する中で課題を明確にし、共有する事で園全体の質の向上を図る。

これからも保護者の方、一人ひとりのお子さんに寄り添い、保育士として深い愛情を持って、子ども達に向き合うと共に、自己の保育を振り返ることを怠らず、コミュニケーション力を高め、保育力、チーム力の向上に繋げていきたいと考える。



チェックリスト集計

令和6年度 後期

自己評価対象	チェック項目	項目数	「はい」の数	割合
第1章 総則		67	59.5	89%
	1 教育及び保育の基本と目標	13	12.5	96%
	2 特に配慮すべき事項	54	47	87%
	(1)教育及び保育の配慮	14	12.7	91%
	(2)健康支援	20	18.9	95%
	(3)食育	11	10.5	95%
	(4)特別支援教育・障害児保育	9	6.9	77%
第2章 子どもの発達		14	13.7	98%
第3章 「ねらい」及び「内容」		110	97.2	88%
	1 保育内容「健康」	22	21.2	96%
	2 保育内容「人間関係」	22	20.1	91%
	3 保育内容「環境」	22	17	77%
	4 保育内容「言葉」	22	20.9	95%
	5 保育内容「表現」	22	18	82%
第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項		40	38.4	96%
	1 乳児期の保育に関する配慮事項	28	26.5	95%
	2 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	12	11.9	99%
第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項		30	27.5	92%
第6章 研修と自己評価		15	12.7	85%
第7章 子育て支援		17	14.4	85%
	合計	293	263.4	90%

